

---

# そして、君が消えた

秋川 鋭

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

そして、君が消えた

### 【Nコード】

N0765J

### 【作者名】

秋川 鋭

### 【あらすじ】

都内の私立高校に通う17歳の少女七緒は、いわゆる不良少女。放課後になると、友達と繁華街を練り歩き、煙草にパチンコ、不順異性交遊に援助交際から、果ては麻薬にまで手を出した事もある。それなのに補導歴はない。彼女は人を手玉に取る方法を熟知している。

家族構成は片親の一人っ子で、父親を無くしている。

七緒は母親を憎んでいた。母親もまた、七緒を憎んでいた。

事情は語るに長い。

しかし七緒の精神状態を、複雑なそれが圧迫しているのは事実で、彼女は何処か冷たく、何をしていても人に冷淡な印象を与える様だった。

お互いにお互いを嫌い、関わり合おうとしない不幸せな母娘。

しかし、ある日母親が再婚相手を見つけた所から、大きく運命が変わり始める。

## 0 : Her morning

ああ。またか。

朝起きる度に、頭痛がする。

元々血圧が低いのに。夜遅くまで起きているからだ。

理由は分かっているのだ。

殆ど毎朝、この調子だが、彼女は学校に遅刻したことがない。

こんなに朝、辛い思いをするのに。

いわゆる二度寝をしたりとか、面倒になってサボったりすることもない。

だからと言って私は学校が好きな訳じゃない。

授業は面倒で、教師はうるさい。やたら規則が多くて、排他的。面倒に決まっている。

友達に会うだけなら放課後があるし、それならそれで午後の終りかけの頃に、

タラタラ登校した方が良く。別に大学へ行くわけでもない。

それでも私には、学校へ行く理由がある。

布団から起き上がり、部屋から出て廊下に立ち　その”理由”を睨む。

ドア一枚隔てて、そこに居る人間に吐き気がする程の憎悪を感じながら。

一刻も早く、この家から出ようと心に決めて登校準備を始める。それが私の、いつもの一日の始まりだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0765j/>

---

そして、君が消えた

2010年10月11日20時32分発行